

## B-1 単元計画・学習過程

### ◇ 子どもの思考の流れを意識した単元計画

「子どもにどんな力をつけたいか」を考えた単元計画を推進し、教師の見通しにたって指導計画を作ってきた。

○単元全体の「つかむ」段階での課題づくりの重要性

- ・子どもにとって与えられたイメージの課題ではなく、子どもの方から思いを大事にしたものであること。
- ・子どもを主体に、子どもを前面に考えたもの、子どもの意識の流れをつかんだ学習の進め方が大事であること。

○教材の良さに気づく学びの過程

- ・教材の良さに気づき、「過程」や「法則」の良さを深めていく。

\*課題と問題のとらえ方

大きな課題の中に問題があるという考え方で統一している。

学習問題…単元を貫く大きな課題、学習の方向性を示すもの

つかむ段階から「どんなことを学んでいくのか」話し合い計画化する。  
子どもの気づきや疑問を学習課題にまで高めていく。

課題 …目標（評価規準）

解決の予想がたつもの

解決の見通しがたつもの

解決する手段があるもの

問題 …算数でいう問題場面、提示される問題

尚、課題についての表記のしかたは、次のようにした。

教師側が用意した課題                      児童側から出た課題                     

児童側からの課題については、単元計画の中で、1時間以上設定するようにした。

### ◇ 課題解決型授業構成

(主体性を育む学習過程を工夫)

求める児童像

単に答えを求めるだけでなく、自ら課題を見つけたり、課題をつくったり、課題を発展させたりしていく。そのために、指導過程を設けた。この指導過程については、教科、学年に応じた表記で行った。

例 つかむ ⇒ 調べる ⇒ 深める ⇒ 広める

教師側の工夫

\*課題提示の工夫

～してみたい（活動欲求）、不思議だ・あれ？（解決欲求）を満たすような課題を与える。そのために教材・教具を吟味した。

\*練り上げの工夫

学習形態の工夫

… 少人数指導、グループ（学級の班、意見毎、ペア、近くの数名で、解決方法の手段毎）等の工夫を行った。一人では解決できないとき、もっと深めたいとき、学習形態の工夫が効果的であった。

話し合い活動の工夫

… 「みんな発表」という目標やネープレートを使って等、発表の仕方・聞き方の指導、目指す姿を学年別に策定し、実践した。

\*ふり返りの工夫

… 「ふり返りカード、言葉で、日記で、授業の再現作文で」等の取り組みを行った。

\*その他

… ヒントカードの工夫を行った。

